

2 固定通信ネットワークの高度化

2-1. ブロードバンドサービスの進化とPSTNマイグレーション

(1) ブロードバンド革命——ADSLの登場

1999年11月にNTT東西は「IP接続サービス」の提供を開始した。INSネット64ユーザーを対象に、INSネット用の交換機を経由して、ISPの設備を通じ、IP網に接続することにより全日帯の利用料金が定額となるサービスである。これにより、ユーザーは定額で廉価にインターネットを利用することが可能となったが、動画等の大容量コンテンツを視聴するには十分な通信速度ではなかった。こうした高速化ニーズに応える取り組みが、以下で取り上げるブロードバンドサービスの提供である。

2000年前後、電話局と家庭を結ぶメタル回線を使ったADSL (Asymmetric Digital Subscriber Line)の商用サービスが登場し、インターネット常時接続を低料金で利用できる画期的な手段として注目された。NTT東西は2000年12月に「フレッツ・ADSL」を提供開始し、当初下り最大

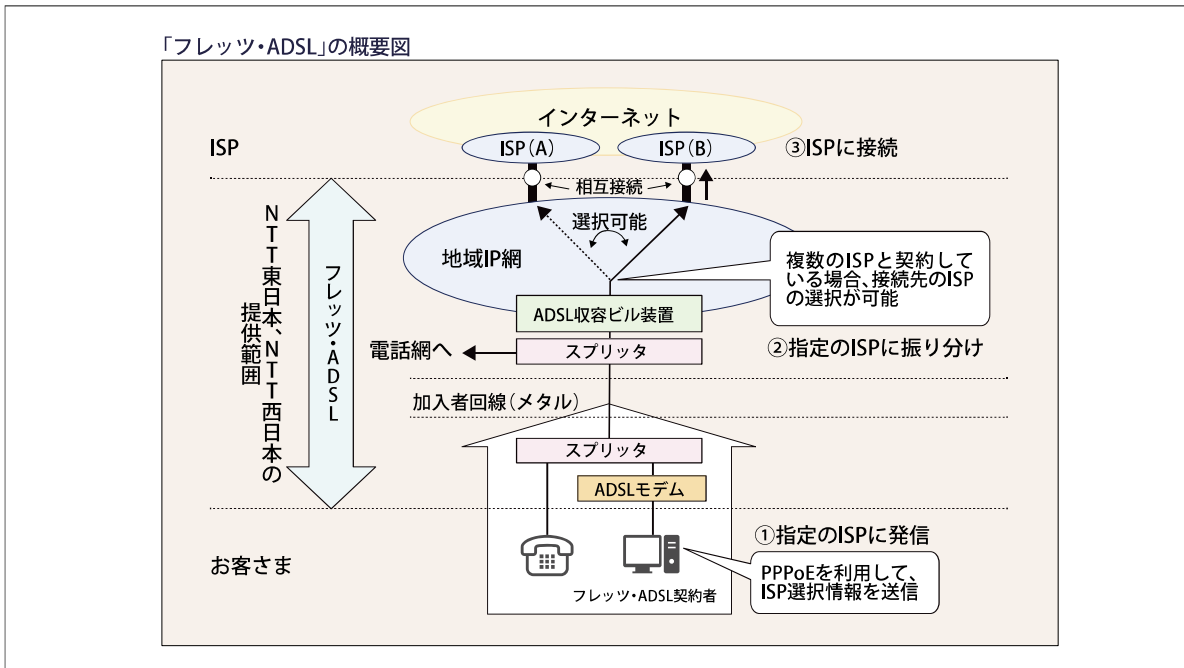
1.5Mbps、1年後には8Mbpsの速度を月額3千～4千円程度で提供した(図表1-2-1)。競合他社ではYahoo! BB(現ソフトバンク)やイー・アクセスがさらに挑戦的な料金で市場を揺さぶり、数カ月単位で何度も値下げが行われる料金競争に突入した。

ADSLは距離減衰やノイズ耐性などの課題を抱えつつも、それまで主流だったダイヤルアップ接続とは桁違いの高速性を低価格で提供し、“ブロードバンド元年”という言葉が喧伝されるほど社会にインパクトを与えた。これによりオンラインゲームや大容量ファイル転送、音楽・動画配信サービスなどが始まり、インターネットを日常的に使う環境が整った。

(2) 光ファイバー網の整備

前述のとおり、ADSLの登場を契機として、日本では2000年以降、インターネットのブロードバンド化が急速に進んだ。既存のメタル・アクセス回線を利用するADSL方式をはじめ、ケーブルTV回線を利用するケーブルモデム方式のブロードバンド、また、限定的ではあるがユー

図表1-2-1 ▶フレッツ・ADSLの概要



出所：NTT『NTTグループ社史 [1995-2005]』(2006年3月)